

(69)

氏名(生年月日)	ヒラ 平	サワ 澤	シン 伸	イチ 一
本籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第995号			
学位授与の日付	平成元年2月17日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	強迫恐怖と強迫意志			
論文審査委員	(主査)教授 柴田 収一			
	(副査)教授 丸山 勝一, 教授 橋本 葉子			

論文内容の要旨

目的

強迫症状群の症状学的中核をなしている強迫現象を、記述現象学的に特徴づけ、かつそれを精神病理学的に分析することによって、その病態発生についての理解を深める。

方法

強迫症状群の中核例2例を呈示する。それらに共通した症状学的特徴を明らかにし、そこに取り出された現象の精神病理学的分析を試み、考察する。

結果及び考察

中核的な強迫現象では、恐怖症的側面と強迫症的側面とが記述現象学的に区別され、それぞれは強迫恐怖、強迫意志とまとめることができる。すなわち強迫恐怖は知覚の退行に由来する知覚界の独特な相貌化として体験されると同時に、身体的揺動において原始的感受傾向が判別的感受傾向を圧倒する特殊布置への囚われに連関している。また強迫意志は、強迫恐怖に対する防衛の不可避的促迫として体験され、相矛盾した諸要請に駆り立てられていることに由来する非現実化と苦役化とによって特徴づけられた。

強迫恐怖については、すでに人間学派によるすぐれ

た精神病理学的分析がある。しかし、強迫意志をも包括した、より全体的な理解は提出されて来なかった。われわれは、強迫恐怖の成立と強迫意志の発生とが密接な表裏関係をなしていることを理解するための一連の概念を呈した。すなわちこのような強迫恐怖と強迫意志の病態発生の淵源は、H. Schmitzの人格的解放の概念により、人格的状況の不安定さと人格的世界の境界動揺との中に求めることができるものである。とりわけ従来十分には取り上げられて来なかった強迫意志は、人格的状況の不安定さとして現象する自己世界の脆弱性を、隠れ家として魔術的に全能化された自我の随意性によって克服しようとする促迫である。このような強迫意志には固有の矛盾がみられ、そこから、空転する強迫的儀式と、更にはそれを支える神経症的欺瞞とを明らかにすることができた。

結語

強迫現象の現象学的二面、強迫恐怖と強迫意志は、人格的解放の独得な障害として相互に密接に連関している。すなわち人格的世界の境界動揺の原因となる自己世界の脆弱性がその共通の障害である。

論文審査の要旨

本研究は、精神科領域の各種の疾病や非疾病性障害の症状として現れる強迫症の精神病理学的解明を試みたものである。

著者は中核例2例を呈示した後、それらを分析して、強迫症状の二面、即ち恐怖症と、強迫行為を生ぜしめ

る強迫意志との連関を、自己世界の脆弱性という共通の障害に見出した。この点で、従来の強迫症解明の試みに比し、より根源的な解明と言え、学術上価値ある研究と認められる。

主論文公表誌

強迫恐怖と強迫意志

臨床精神病理 第9巻 第4号

327～341頁（1988年12月発行）

副論文公表誌

1) 経過から見た K. Schneider の一級症状と感情

病性症状との関係

臨床精神医学 15（12）1997～2005（1986）

2) 老年期精神病におけるヒステリーの態度の遷延
—その性格学的考察—

臨床精神医学 16（12）1807～1814（1987）